

1 品種の概要

(1) 奈良県推奨品種

項目 早晚性	品種名	来歴 育成年	形態的特性				
			樹姿	株張	成葉・新葉の特性	芽立ち (新葉)	分枝数
やや 早生	きらり31	さきみどり× さえみどり 2016年	中間	やや大	長楕円形、大きさやぶきた並、葉厚新葉やぶきた並・成葉やや薄、緑色、やや光沢多	着葉角度やや鋭角	やや多い
	せいめい	ふうしゅん× さえみどり 2020年	やや直立	中	楕円形、大きさやぶきた並、幅広、葉厚薄、光沢やや多、葉質軟	芽数やや多、着葉角度上向き～水平	やや多い
中 生	やぶきた	在来種より選抜育成 1953年	やや直立	中	長楕円形 やや大型 緑色 光沢に富む	やや芽重型 芽揃い良	中
	さみどり	宇治在来種選抜 1954年	極直立	小	新芽は大きい 淡緑色ないし黄緑色 光沢に富む	芽が直立性 芽長が長い	
晩 生	おくみどり	やぶきた× 在来種F1より選抜育成 1974年	中間	中	やや楕円形 やぶきたより小 緑色 光沢に富む	芽数型 芽揃い良	多い
	やま みどり	在来種より選抜育成 1953年	やや直立	中	楕円形 濃緑色	芽重が小 芽揃いやや不良	多い

生理生態的特性									
萌芽期 (樹齢日)	摘採期 (樹齢日)	樹勢	収量性	摘採適期の 出開き度	さし木 発根性	耐寒性	炭疽病 抵抗性	輪斑病 抵抗性	クシカバ 抵抗性
-4日	-3日	強	多		中	赤枯れに強 青枯れに強 裂傷型凍害に強	弱	強	弱
-5日	-4日	やや強	多			赤枯れに中 裂傷型凍害にやや 強	中～ やや弱	強	弱
	0	やや強	やや多	55～80%	良	赤枯れにやや強 青枯れに中 裂傷型凍害にやや 強	弱	弱	弱
	+1.5 日	強	やや多		中	赤枯れに強 青枯れに強	中	やや弱	
+3日	+3日	強	多		良	赤枯れにやや強 青枯れにやや強 裂傷型凍害にやや 弱	やや弱	やや強	弱
+10日	+8日	やや弱	やや少	55～80%	中	赤枯れに強 青枯れにやや強 裂傷型凍害に強	極強	強	中

項目	品種名	品質的特性		
		外 観	内 質	備 考
早晩性	きらり31	煎茶として色沢優れる	アミノ酸含量高く、温和な香気。被覆適性が高い。	
	せいめい	色沢が鮮緑で優れ、抹茶、粉まつ茶の原料としてのてん茶・もが茶の製造に適する	水色は青みを帯びて透明感があり、滋味はうま味が強く、渋味が弱い。	煎茶の場合、下位葉の幅が広い ため精揉時に注意。粗揉機では底だまりしやすい ため、生葉投入量は多めに。
中 生	やぶきた		香気は濃厚さには欠ける。 苦渋味がなく甘味があつて上級茶の性質がある。	
	さみどり	てん茶として外観の色や染まりが均一で芽えを有する。	てん茶以外の茶種についても、葉位による熟度差が小さく茎が柔らかい、適期幅が大きい ため、年次変動が小さく、品質水準が高い。	てん茶、玉露及び煎茶の各茶種に対して適性あり。
晩 生	おくみどり	緑色で形が良い。茎目立ちやすい。	やぶきたと同等。 香気、滋味ともにさわやかさがあり、欠点がない。 水色は透明であるがやや薄い。	摘採遅れによる品質劣化が小さい。
	やまともみどり	やや黒味。	タンニン含量が多く、うま味・渋味がある。	

栽培適地及び導入上の注意事項	栽培上の注意事項
<p>早生種であるが、越冬芽の耐寒性が高いため、防霜施設の整った場所で栽培可能。</p>	<p>耐寒性が強い。 赤焼病にやや弱く、もち病、炭疽病に対する抵抗性は弱い ため、これらの防除は必要。</p>
<p>幼木期の防寒防風対策が必要。 防霜対策が必要。 寒冷地での摘採期はやぶきたと同等あるいは1日程度遅い。</p>	<p>通常の栽培では炭疽病の発病は少なく、秋冬番茶の防除は銅水和剤で対処可。</p>
<p>適応範囲が広い。</p>	<p>定植1～2年目の寒風害に注意。寒風が強い所では防風を行う。 直立性が強く、主幹が徒長しやすいため、幼木期の仕立ては、せん枝位置を低くし、側枝の生育を促す。</p>
<p>冬季には乾燥低温下で風を受けると枝条中間部の落葉が目立つので防風対策が必要。</p>	<p>幼木期の生育はやや劣るが、成園化すればかなりの多収が見込める。 枝条の伸長性が良く、手摘みしやすい。 遮光下における新芽の生育が優れている。</p>
<p>寒害、霜害対策品種として考える。 摘採期間延長品種として利用できる。</p>	
<p>寒害常発地域の導入品種として考える。 排水の良い園地や有効土層が深い園地に導入する。 砂質土壌で生育・品質が良好。</p>	<p>結実性が高いので注意する。 初期生育が劣る。</p>